

男女共同参画情報誌

りふる

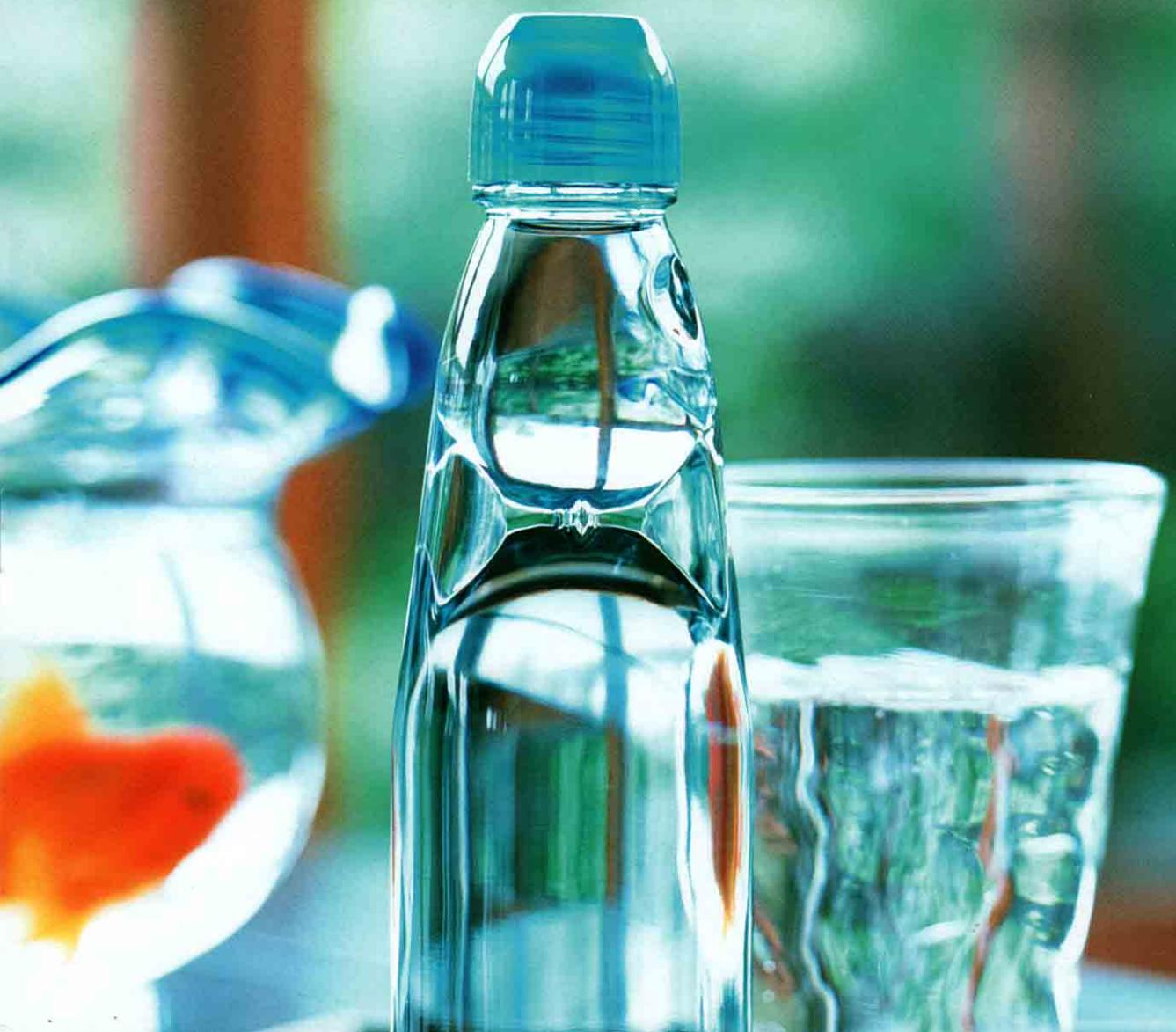
さっぽろ

特集

「医療の現場から
男女共同参画を考える」

インタビュー
北海道の高齢社会をよくする女性の会

Vol.8
Summer



堀本 江美さん

苗穂レディスクリニック院長

医療の現場から 男女共同参画を 考える

札幌医科大学非常勤講師。婦人科医をはじめとするウイメンズヘルスケアの専門家の集まり「オーキッドクラブ」(<http://www.orchid-club.gr.jp/>)でインターネット医療相談を担当。「Domani」(小学館)2005年6月号では、“PMS月経前症候群”の特集で3人の名医の一人として紹介されました。



女性の体は複雑

女性の体は妊娠、出産をするために複雑です。同じひとりの女性で考えてみても思春期、性成熟期、更年期、老年期で女性のからだは違います。月経があったりなかったりするために女性が自分の症状を話すには多くの時間が必要であり、3分診療では足りないです。現在の医療環境は女性には

合いません。だからこそゆっくりと時間をとってお話を聞く新たな女性外来が必要なのです。

新薬を試す治験では 男性がモデル

毎年、新しい薬が開発されています。新しい薬は治験薬といって服用データを集めます。そのデータは男性だけで検査されたものだったのです。理由は1960年

代のサリドマイド禍などの薬害があり、1977年アメリカのFDA(米国食品医薬品局)が妊娠の可能性のある女性を治験に参加させるのは好ましくないとしたことから、治験の対象が男性だけという時代が10年以上続きました。そして80キロの男性に100ミリグラムを投与するなら、40キログラムの女性には単純に半分の50ミリグラムを投与するのが当たり前となったのです。しかし女性は男性の小型版

ではありません。男性にはなかった副作用が、女性に現れました。女性には独自の研究が必要なのです。

（リーダーは男性。 医療も例外ではない）

どの職種でも大きな道筋を決めていくのがリーダーの役目ですが、リーダーは男性であったり、女性であったり、老いも若きも、いろいろな立場を代表していることが理想です。しかし、そのバランスはとれていません。日本では、国会議員も会社の社長も、大学教授も、国民の意見を伝えるマスコミのトップも、そのほとんどが壮年男性です。

医療の世界も例外ではありません。医学の研究目標を決めているのは男性であったために女性の健康問題の研究は立ち遅れているのです。女性の月経や妊娠のコントロールに不可欠なピルはなかなか認可されなかつたのに対して、男性の勃起障害の治療薬であるバイアグラが素早く認可されたことも海外では話題になりました。

（男性に合わせて作られている働く環境、 それに無理にあわせて働く女性）

現代の社会のしくみは、男性が働きやすい環境にな

っています。長時間の労働が美德とされ、家庭生活に時間をとることが認められないために、仕事のために家庭をもつのをあきらめたり、子育てのために退職するしかない現状があります。女性の生きにくさの中には共通点があり、女性の医師も同じように感じています。自分自身が悩んで人生を切り開いてきたことで、日本の社会で生きる女性の悩みを自分の問題として捉えることができるのです。女性の健康問題では、そのような視点も不可欠であり、臓器だけではなくトータルに診る医療が女性医療なのです。

（女性の健康に関する 基本的な権利である リプロダクティブ・ ヘルス／ライツ）

1994年エジプトのカイロで国連国際人口開発会議が開かれました。この会議により、性と生殖に関する健康／権利（リプロダクティブ・ヘルス／ライツ）という概念が国際的に認知されました。女性の基本的人権として、健康であること、精神的に、身体的に、そして社会的に差別を受けないで健康が保障される権利があるということなのです。

（自分を振り返って）

些細なことですが医者に

なって間もない頃、道南の小さな町の病院に一週間泊まり込みで出張するがありました。担当者から、「女性の当直室もトイレもないし予算もない。自分のお金で近くの旅館に泊ってほしい」と言われました。私は男性用で構わないと押し切り平然を装って、みんなが歩く病院の廊下で顔を洗って身支度し病院に泊まり込みました。あとから古参の男性医師が強く拒否していると聞かされ悲しくなりましたが仕事に集中しました。次には、婦人科を受診した患者から「おんなも医者になれるのかい。わたしもなればよかった」と言されました。どうやら若い女性の医師の診察に戸惑いを感じているようでした。たくさんの今までと違うことを、私自身が体現してきたように思います。

また医師として研鑽を積む大切な時期と家庭を築く時期が重なり、つらい時期がありました。強く望んでいた妊娠なのに、迷惑をかける引け目を感じて悩んでいました。出産後も手術や外来診療はますます多忙を極め、今度は子どもに引け目を感じ苦しんでいました。そして今ではこれまでの経験が私の宝となっています。20年近く産婦人科医として働いてきて感じたことは、女性はいかに女性ホルモンに翻弄され、同時に守られているか、ということです。

一ヶ月に7日間の出血期間だけでなく、女性ホルモンの周期的な変化で卵子をつくり排卵しています。いつも変化するからだとつきあいながら男性に混じり頑張っていく若い世代のキャリア女性。妊娠出産というダイナミズムの体現、更年期がきて女性ホルモンが激減すると増えるさまざまな病気。心臓病は圧倒的に閉経後の

女性に多く深刻です。女性に多い先天的股関節脱臼も、手術の順番を待つのは閉経後の中高年の女性たちです。女性は自分のからだのしくみを理解し、良き友人として専門家と話し、自分になにが必要かを考えることが大切です。そうすればこの長寿の時代を元気に生きていくことができるのです。

性差というのは確実に存

在し、使用する薬や使用量だけではなく、対処方法や正常値も同じではありません。今まで、体の不調を訴えても、不定愁訴（ふていしゅうそ）と呼ばれ、治療されていない女性が多く存在していました。これからはこの新しい視点で医療そのものが進化していくことが期待されます。

“情報センター”から関連図書のご案内

情報センター（札幌エルプラザ内）では、男女共同参画、消費生活、市民活動、環境に関する図書、資料等を扱っています。図書やAV資料の貸出の他、インターネット検索もできますので、どうぞご利用ください。



体と心のSOSを見逃さないで—女性医師による働く女性のための専門外来

「病院へ行く時間がない」「何科へ行ったらいいのかわからない」「病院へ行くのが、恥ずかしい」と思っている女性、忙しくて時間のない女性の体と心をサポートする一冊

著者名 星野 寛美／著
出版社 光文社
出版年 2002



女性のための女医さんガイド

第1章「女性の一生をトータルに診ていきます」第2章「男のお医者さんには伝えにくいけれど…」などなど“あなたの悩みにお答えします”

著者名 堀口 雅子／監修
出版社 法研
出版年 2000



女医さんのいる全国病院ガイド—オナの病、駆け込み本

20代～40代の女性は女医さんを求めていた！ 気になりつつも後まわしにしていた『婦人科系・乳腺外来・心療内科』安心ナビゲーション

出版社 ブックマン社
出版年 2004



女性の医学元気になるこことからだ

「知っておきたい自分のからだ」「こことからだはつながっている」「産婦人科医からのメッセージ」など、元気回復メニューで悩み解消！

著者名 井尾 裕子／監修
出版社 池田書店
出版年 2000

*図書等の貸出、インターネットの使用には「かしだしけん」が必要です。すぐに発行することができますので、住所、氏名の分かるものをお持参ください。

札幌市 男女共同参画推進室 からのお知らせ

Information

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目
電話:(011)211-2962 FAX:(011)218-5164
ホームページ：<http://www.city.sapporo.jp/shimin/danjo/>

DV（配偶者からの暴力）対策についての 中間報告書がまとめました

札幌市男女共同参画審議会では、本年3月に「札幌市のDV対策の方向性について（中間報告）」を市長へ提出しました。この中間報告を公表し市民の意見を聴いて最終報告書をまとめる予定です。

これは、平成16年5月の改正配偶者暴力防止法の成立を受けて、札幌市のDV防止施策のあり方について検討するため、同審議会に「女性への暴力に関する専門部会」を設置して、同年7月から9ヶ月間にわたる審議の結果を取りまとめたものです。

（中間報告の概要）

札幌市におけるDVの現状と課題について、「被害者」、「子ども」、「加害者」の3つの視点から、「相談」、「一時保護」、「自立支援」、「未然防止のための普及啓発」、「関係機関との連携」の5つの機能について検討を加え、今後の施策のあり方の方向性を示しています。

この報告書は、男女共同参画課で閲覧することができます、ホームページでも見ることができます。

ホームページ

札幌市のDV対策の方向性について（中間報告書）

<http://www.city.sapporo.jp/shimin/danjo/boryoku/hokoku.htm>

札幌市男女共同参画審議会について

札幌市男女共同参画審議会は、男女共同参画の推進に関する基本的かつ総合的な施策について調査審議等を行うことを目的として設置された市長の附属機関です。

委員の任期は2年となっており、本年4月1日に公募委員4人を含む15人の委員が選出されました。委員の氏名等は右記のとおりです。

また、4月21日の審議会で、市長から「札幌市のDV対策の方向性について」と「札幌市男女共同参画センター使用料の一部変更について」が諮問されました。同審議会では、「女性に対する暴力に関する部会」「事業評価部会」「男女共同参画センター使用料部会」の3つの部会を設置して諮問内容等を検討しています。

審議会の概要につきましては、ホームページでも紹介しています。

ホームページ

札幌市男女共同参画審議会からのお知らせ」

<http://www.city.sapporo.jp/shimin/danjo/singikai/singikai.htm>

男女共同参画に関する 企業の意識調査結果がまとめました

札幌市では、民間企業で働く女性・男性の雇用の場における男女共同参画に関する現状や、企業の経営者・責任者が職場において男女共同参画についてどのような意識を持っているかを把握し、今後の取り組みの参考とするために、おおむね5年ごとに企業の意識調査を行っています。

本年5月には、平成16年10月から11月にかけて行った調査の結果を取りまとめた報告書を発行しました。

この報告書は、男女共同参画課で閲覧することができます、ホームページでも見ることができます。

ホームページ

男女共同参画に関する企業の意識調査報告書

<http://www.city.sapporo.jp/shimin/danjo/kigyo/index.htm>

札幌市男女共同参画審議会（第2期） 委員名簿

平成17年4月1日現在(五十音順)

かじい 梶井 はうこ 祥子	北海道武藏女子短期大学助教授	
あさや 京谷 のり代	地域ボランティア	公募委員
こんどう 近藤 恵子	NPO法人女のスペース・おん代表理事	
ささき 佐々木 嗣昭	北海道新聞社編集局札幌圏部長	
さとう 佐藤 泰子	NPO法人北海道子育て支援ワーカーズ理事	
たかはし 高橋 眞	高橋・川越司法書士土地家屋調査士合同事務所 所長(札幌商工会議所女性会副会長)	
にしだ 西田 順子	ジェンダーフリー清田幹事	公募委員
はつと 服部 信吾	株式会社丸高三信堂代表取締役社長 (北海道中小企業家同友会常任理事)	
はばさき 幡崎 麻紀子	名寄短期大学非常勤講師	公募委員
はら 原 敦子	原敦子法律事務所	
ふじい 藤井 克裕	北海道大学学生	公募委員
ほんま 本間 よしお	札幌市立柏丘中学校校長	
まつばら 松原 良次	特定医療法人社団慶愛会札幌花園病院院長	
やまもと 山本 功	連合北海道札幌地区連合会副事務局長	
よこやま 横山 隆	(財)北海道スウェーデン協会理事	

Interview

インタビュー

このコーナーでは、地域で男女共同参画社会を推進するための活動に取り組んでいる個人や団体にインタビューし、その活動内容をお伝えします。

今回は、1989年に会を発足後札幌を拠点に活動し、昨年15周年を迎えた「北海道の高齢社会をよくする女性の会」事務局長の佐々木久美子さんにお話を伺いました。

佐々木 久美子さん

「北海道の高齢社会をよくする女性の会」事務局長



Q. 「北海道の高齢社会をよくする女性の会」の発足のきっかけを教えてください。

A. 「高齢社会をよくする女性の会」（東京）の代表であり、評論家の樋口恵子さんの考えに賛同したのがきっかけです。北海道の高齢者問題について女性が自ら考え、行動し行政に対しても女性の視点からの提案をしていきたいという目標を持ち活動をしています。「高齢社会をよくする女性の会」は全国組織の会ですから、グループ会員として全国の方々と交流を持ち活動をしています。

Q. どのような活動をしていますか？

A. 会員のニーズに答え、老人保健施設やケアハウス等への施設見学、住まいについての学習会、道内の市町村の方々と高齢者対策についての意見交換会などを実施してきました。毎年秋には設立記念講演会を開催しています。昨年は、15周年にあたり樋口恵子代表に講演をしていただきましたが、400人近い方に参加して頂きました。

Q. 活動をとおして、感じたことを教えてください。

A. 高齢者でも目的を持って生き生きと生活をしてい

る人に出会うことができます。お互いが共鳴し、さまざまな意見を聞くことにより新しい自分を見ることができたと感じています。

Q. 女性が直面する高齢者問題についてどのように考えていますか？

A. 一人暮らしの高齢者の3/4は女性と言われています。日々の生活や介護に追われ、気がついた時には自分も「老い」を迎え、しかし、経済的自立は困難で長い老いを貧しく生きているのが現状ではないでしょうか。だからこそ、社会全体で介護を支えるシステムが必要だと思います。

Q. みなさんへメッセージをどうぞ。

A. 「北海道に住んでいて良かった」と思える高齢者が一人でも多く増えることを願います。そのためには、自分たちがどのような取り組みをしていくことが重要かを考え、活動をしていきたいと思います。年老いても家に閉じこもらず、外へ一歩を踏み出すとともに、自分の存在を認め、人とのつながりを大切にしていただきたいですね。そのお手伝いができるたらと考えています。

数字に見る男女共同参画

14.4%

(札幌市において平成14年度に登録をした医師のうち、女性の医師の割合)

●登録医師における女性と男性の割合●



厚生労働省の調査によると、札幌市で医師として登録をしている女性の数は全体の14.4%です。平成8年から平成12年までは、女性の医師の登録数の伸び率は増えることはほとんどありませんでしたが、平成12年から平成14年の調査では2%上昇しました。最近では、“女性外来”が増え女性の医師が診察をするケースが多くなってきました。また、同性の医師の診断を希望する患者もいます。しかし、まだまだ女性の医師の割合が少ないのが現状です。あらゆる場面で、性別にかかわりなく一人ひとりの個性と能力が発揮できる環境が整うといいですね。

(厚生労働省統計表データベースシステム 調査名「医師・歯科医師・薬剤師調査」より)



相談室 Q&A

このコーナーでは、男女共同参画センターの相談窓口に寄せられる相談内容を参考に、身近な問題解決についてご紹介します。

Q. 体調が優れず病院に行きました。悪いところはなく「気持の問題」と言われましたが、それ以来不安で眠れません。どうしたらよいでしょうか。

ったことも専門家だからこそ内密に親身に聞いてもらえるでしょう。自分ではありませんが気付かなかつた心のもつれも話してみると意外にスッキリすることもあります。

A. 毎日の生活の中で、何かあったわけでもないのに、“なんとなく体調が優れない”“気持ちが落ち着かない”“眠れない”と感じた時は最近の生活を振り返るとよいでしょう。

札幌市男女共同参画センター相談窓口

一人で悩まず、新たな一步を踏み出すきっかけとしてご利用ください。相談は無料です。

女性のための 相談	総合相談	火 15:00~17:00 (第2火 18:00~20:00) 木 10:00~12:00	728-1225 (面接・電話)
	法律相談	金 13:00~15:00(要予約) (第2金 18:00~20:00)	728-1222 (面接／一人30分)
	心とからだ 相談	火 14:00~16:00(要予約) 第1~3火 精神・神経科医、心理士 第4火 産婦人科医	728-1222 (面接／一人50分)
	仕事の悩み 相談	水 13:30~15:30 土 10:00~12:00	728-1227 (面接・電話)
	男女の人権相談	月 10:00~12:00 水 18:00~20:00	728-1226 (面接・電話)

また、具体的な悩みであれば、その悩みに適した人物に相談し解決の糸口を得ることも必要でしょう。それでも改善の兆しがなければ、心療内科、神経精神科などに受診することをお勧めします。「病院はちょっと…」と気後れしてしまう方には、「女性のための心とからだ相談」をおすすめします。無料で医師や心理士に相談ができます。専門家との相談は心とからだの健康を取り戻せる方法と一緒に考える時間になります。誰にも話せなか

札幌市男女共同参画センター主催事業のお知らせ

心とからだセミナー

女の更年期・男の更年期

互いの更年期障害の治療方法や症状を学び、理解を深めてみませんか？

●実施日 7月28日（木）

●講 師 小林 皇さん

（札幌医科大学附属病院 泌尿器科医師）

藤井 美穂さん

（医療法人社団カレスアライアンス天使病院 婦人科医師）

●時 間 19：00～21：00

●定 員 40名

●受講料 800円

●申 込 7月11日(月)より電話で受付。先着順。

女と男のトークセッション2005

『百合祭』シネマ&トーク

映画上映と、「百合祭」の監督浜野佐知さん、北海道大学大学院教授金子勇さんとの対談。

高齢社会にむけて豊かな生き方を考えてみませんか？

●実施日 9月3日（土）

●時 間 13：30～16：30（開場：13時）

●定 員 320名

●入場料 1000円

（事前に入場券の購入が必要です）

入場券は男女共同参画センターで販売しています。

電話予約もできますので、お問い合わせください。

国際交流事業 異文化を知るセミナー

世界の女性の“今”を学ぶ～アフリカ～

現地の様子を学びながら日本に住む私たちに何ができるのかを学びます。

●実施日 8月31日（水）

●講 師 池見 真由さん

（元青年海外協力隊）

藤原 幸恵さん

（市民参加協力調整員）

●時 間 19：00～21：00

●定 員 30名

●受講料 800円

●申 込 8月11日(木)より電話で受付。先着順。

*主催事業には、託児（1歳半以上未就学児）があります。詳細は、「広報さっぽろ」や公共施設などで配布をしている「事業チラシ」をご覧ください。

*講座のお申込は、男女共同参画センターでお受けいたします。（TEL：728-1222）

受付時間：8：45～20：00

講座が終了しました

編集ボランティア講座 H17.5.24(火)～6.21(火) 全9回

男女共同参画の視点で広報技術を学び、男女共同参画センターの編集ボランティアとして活動をしていただくために「文章の推敲方法」「インタビューの実践方法」などを実施しました。



「インタビュー記事の書き方①」(6回目)より
(講師：武井 昭也さん(札幌国際大学教授))

編 集 後 記

北海道の短い夏がやってきました。毎年、この季節になると札幌大通り公園のビアガーデンに行く目標をたてますが、ここ数年は足を運んでいません。今年こそは、実行したいと思います！小さなことで自分自身の目標が達成されると嬉しいものですね。

〈お便りをお待ちしています〉

本誌へのご意見、主催事業、施設利用などに関するご意見をお待ちしています。はがき、封書、FAXで、住所、氏名、電話番号をご記入のうえ、札幌市男女共同参画センター「りぶる さっぽろ」係までお送りください。

発行日 平成17年7月

発 行 札幌市男女共同参画センター

（管理運営 財団法人札幌市青少年女性活動協会）

住 所 ☎060-0808

札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ内

電 話 (011) 728-1222

F A X (011) 728-1229

ホームページ <http://www.danjyo.sl-plaza.jp>